

2018年10月2日  
凸版印刷株式会社**凸版印刷、新構造パウチで詰め替えやすさ向上**詰め替え用スタンディングパウチ新製品「PALM POUCH」を開発  
注ぎ口と充填口を分離させた新構造で、詰め替えやすさの向上と省資源化を実現

凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:金子眞吾、以下 凸版印刷)は、注ぎ口と充填口を分離させ、持ちやすさと注ぎやすさを実現した手のひら(PALM)に収まるサイズの詰め替え用スタンディングパウチ「PALM POUCH(パームパウチ)」を開発しました。主に化粧品業界やトイレタリー業界に向け、2018年11月からサンプル出荷を開始、2019年3月より販売を開始します。「PALM POUCH」を含めた詰め替え用スタンディングパウチで関連受注を含め 2020 年度に約 10 億円の売上を目指します。

本製品は、充填口をパウチ上部に、注ぎ口をパウチ裏面の中央部に配置した新しい形状のスタンディングパウチです。従来の詰め替え用スタンディングパウチは、注ぎ口と充填口がパウチ上部に並列しているものが一般的で、詰め替え時の安定を図るために注ぎ口に口栓などのプラスチックパーツを付けるなどの工夫が必要とされていました。今回開発した本製品では、注ぎ口をパウチ裏面の中央部に配置し充填口と分離させた新しい構造を採用することで、持ちやすさと注ぎやすさが向上しました。また、必要資源の削減により環境負荷低減に貢献します。

なお本製品は、2018年10月2日(火)から5日(金)にかけて開催される「2018 東京国際包装展」(会場:東京ビッグサイト)の凸版印刷ブース(東2ホール・小間番号 2-42)にて展示されます。



「PALM POUCH」のイメージ 表面(左)、裏面・側面(右)

© Toppan Printing Co., Ltd.

**■ 開発の背景**

環境配慮や省資源の観点から、トイレタリー業界のシャンプーや洗剤などを中心に詰め替え用スタンディングパウチ市場は拡大しており、その市場規模は約 250 億円(当社調べ)と推計されています。しかし、従来品では「注ぎ口が開きにくい」、「持ちにくさから詰め替え時に液がこぼれてしまう」などの課題が出ていました。

これらの課題を受けて凸版印刷では、従来の詰め替え用スタンディングパウチとは異なる、充填口をパウチ上部に注ぎ口をパウチ裏面の中央部に配置した新形状の製品を開発しました。注ぎ口をパウチの中央に配置することで、詰め替え時に内溶液が流入しやすくなり、注ぎ口が開口しやすくなります。さらに、詰め替える容器への差し込みやすさも向上させました。また、パウチ幅の短縮で持ちやすく詰め替えが容易になり、プラスチックパーツの削減により、省資源化を実現しています。

## ■ 「PALM POUCH」の特長

### ・詰め替え時の持ちやすさが向上

従来の詰め替え用スタンディングパウチは、注ぎ口と充填口を上部に並列して配置するためパウチの幅を広く設計しなければなりません。本製品は充填口をパウチ上部、注ぎ口を裏面の中央に分離した形状にすることで、パウチ幅を短縮。片手でも持ちやすいサイズを実現しました。

### ・詰め替え時の安定性が向上

注ぎ口をパウチの中央に配置し、詰め替え時に注ぎ口が開口しやすくなりました。また、詰め替えるボトルなどの容器に差し込んだ後のぐらつきを抑えられるため、最後まで安定して詰め替えることができます。



開口しやすい注ぎ口



注ぎ口が中央にあり  
詰め替え時のぐらつきを抑えられる

### ・石油由来資源の使用量削減で環境負荷を削減

プラスチックパーツ付きスタンディングパウチと比較して石油由来資源の使用量が少なく、環境負荷を低減します。また、再商品化委託料を約 5%削減できます。

## ■ 価格

従来のプラスチックパーツ付きスタンディングパウチと比較し、約 10%の低価格化を実現しました。

## ■ 今後の目標

凸版印刷は「PALM POUCH」を含めた詰め替え用スタンディングパウチを化粧品業界やトイレタリー業界に向けて拡販します。

\* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

\* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上